

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式

マーク 21 問(語句選択 7 問 正誤判定 12 問 年代整序 2 問) 記述 19 問 計 40 問

分量・難易(前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (**易化**・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

大問数 4 題、設問数 40 問は変化なし。正誤判定問題が 2 問減少し、記述問題が 2 問増加した。また、解答となる選択肢を 2 つ選ぶ問題が、昨年度の 3 問から 5 問に増加した。

出題の特徴や昨年との変更点

出題は、テーマ通史 1 題、近世 1 題、近代 1 題、現代 1 題である。例年通り、大問Ⅲでは未見史料を素材とする問題が出題された。また、昨年度には見られなかった、史料の文言の理解や史料解釈の力を試す問題が出題された。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	語句選択 正誤判定 記述	原始～中世の文字文化	問 6 は設問の「漢文体」の判断に迷っただろう。問 7 は正確な漢字が書けたかどうかで、得点差がついただろう。問 9 は発問の仕方がやや難しかった。	標準
II	語句選択 正誤判定 年代整序 記述	近世前半のキリスト教をめぐる諸相	全体的に平易な問題が多く、ここで取りこぼしのないようにしたい。問 6 は④の時期が分からなくても、秀吉に関する主要な出来事である④以外を正しく⑤→①→③→②と並べられれば、解答はいと判断できる。	易
III	正誤判定 記述	高橋是清の手記からみた近代の経済 《史料》	早稲田大学法学部頻出の未見史料問題だが、全体的に平易な問題が多かった。問 5 の正解は「西南戦争」だが、「国立銀行条例改正」と迷ったと思われ、やや難。問 10 は史料(3)・(4)から「高橋是清」と特定できる。	やや易
IV	語句選択 正誤判定 年代整序 記述	高度経済成長とその後の日本経済	問 2 は特需景気について詳細な知識が要求されており、難。問 8 の「カナダ」、問 9 のチェルノブイリ原発事故の時期特定も、難。	難

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

入試問題の難度を把握し、差がつきやすい正誤問題や法学部で定番となっている近代に関する未見史料問題への対策を練るためにも、過去問研究を積極的に行いたい。それにより、日頃の学習においてどのようなことを意識する必要があるのかを明確にすることができ、合格に必要な学力を確実に身につけることができる。また、大問Ⅳでは戦後史・時事的事柄の出題が多く、日頃から日本をとりまく国際問題などに関心を持つようにしたい。